

# プロボノプログラムitteki 参加者アンケート



# 目次

Agenda

- 01 | 回答者全体サマリー
- 02 | 年代別サマリー
- 03 | 職位別サマリー

## プロボノプログラム「itteki」とは

主に大企業に所属する社員が就業時間外の時間帯に、ソーシャルベンチャーやNPOのプロジェクトにてプロボノ（ビジネスボランティア）で活動するプログラムです。

企業が自社社員の自律キャリア意識や事業開発マインドの醸成を目的に申し込み、社内での公募等を行い参加者を決定します。

参加者は受け入れ企業の中から希望する活動先を複数選択し、マッチング後に、約40日間のプロボノ活動に取り組みます。

これまでエッセンスでは10回のプログラムを実施し、累計500名が参加、66社が受け入れを行いました。

（2022年12月時点）



## 調査概要

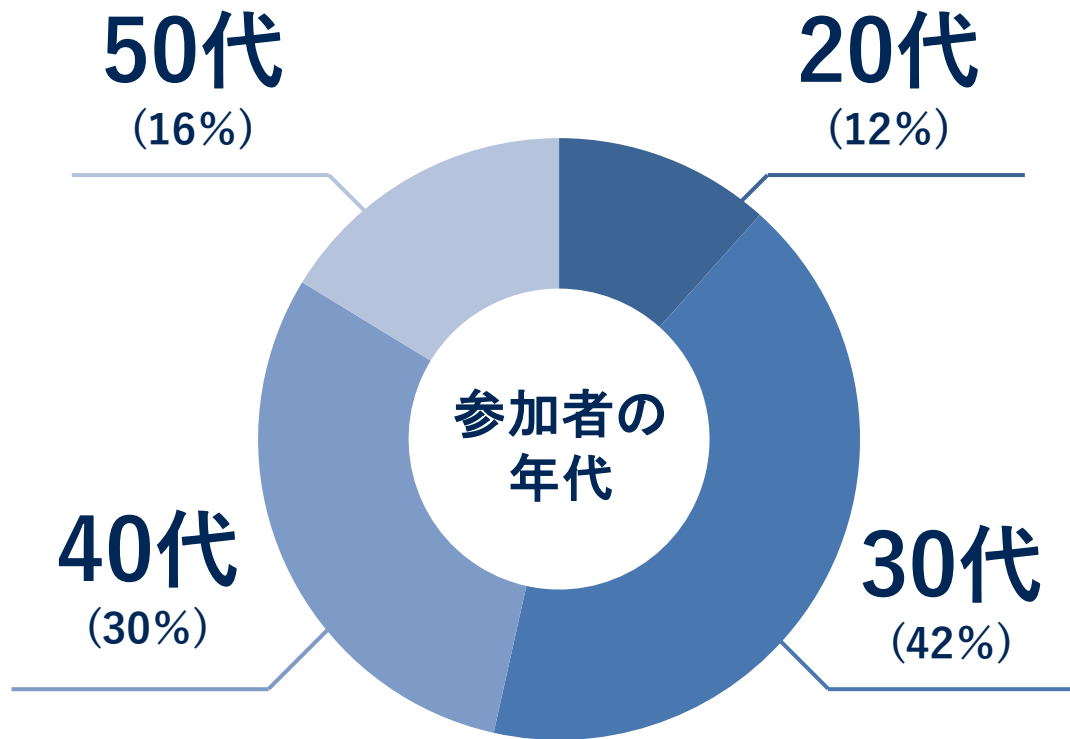
2022年10月から11月にかけて  
プロボノプログラム「itteki」の参加者94人に対し  
オンラインアンケートを実施しました。



# 01 | 回答者全体サマリー

# Q1：年代を教えてください

- 20代～50代まで、幅広い年代のビジネスパーソンが参加
- 30代・40代・50代・20代の順に参加者が多い
- プロボノは幅広い世代のビジネスパーソンとの協働機会

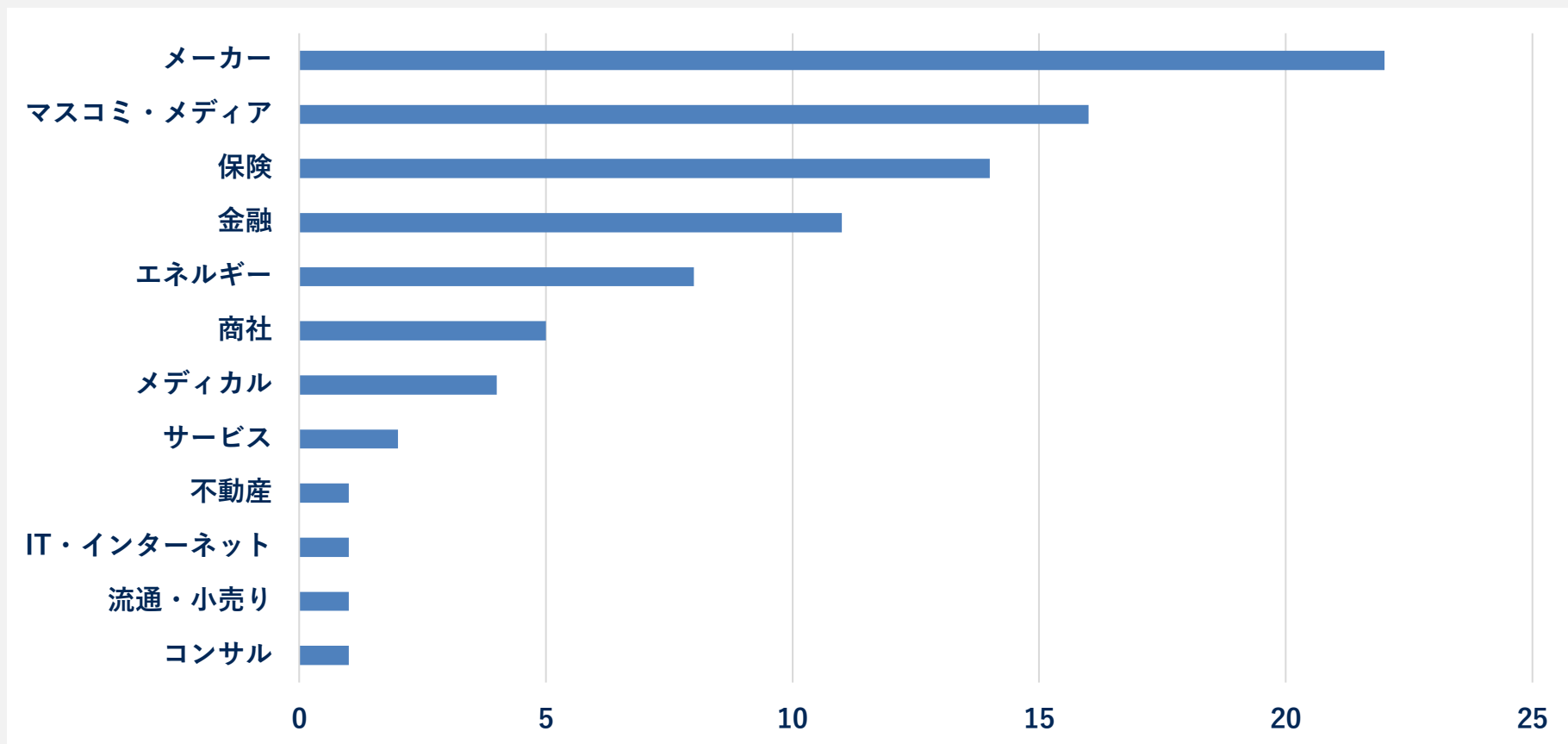


(n = 86)

## Q2：業種を教えてください

- 多様な業種のビジネスパーソンが参加
- メーカー・マスコミ・保険・金融の順に多い
- プロボノは多様な業種のビジネスパーソンとの協働機会

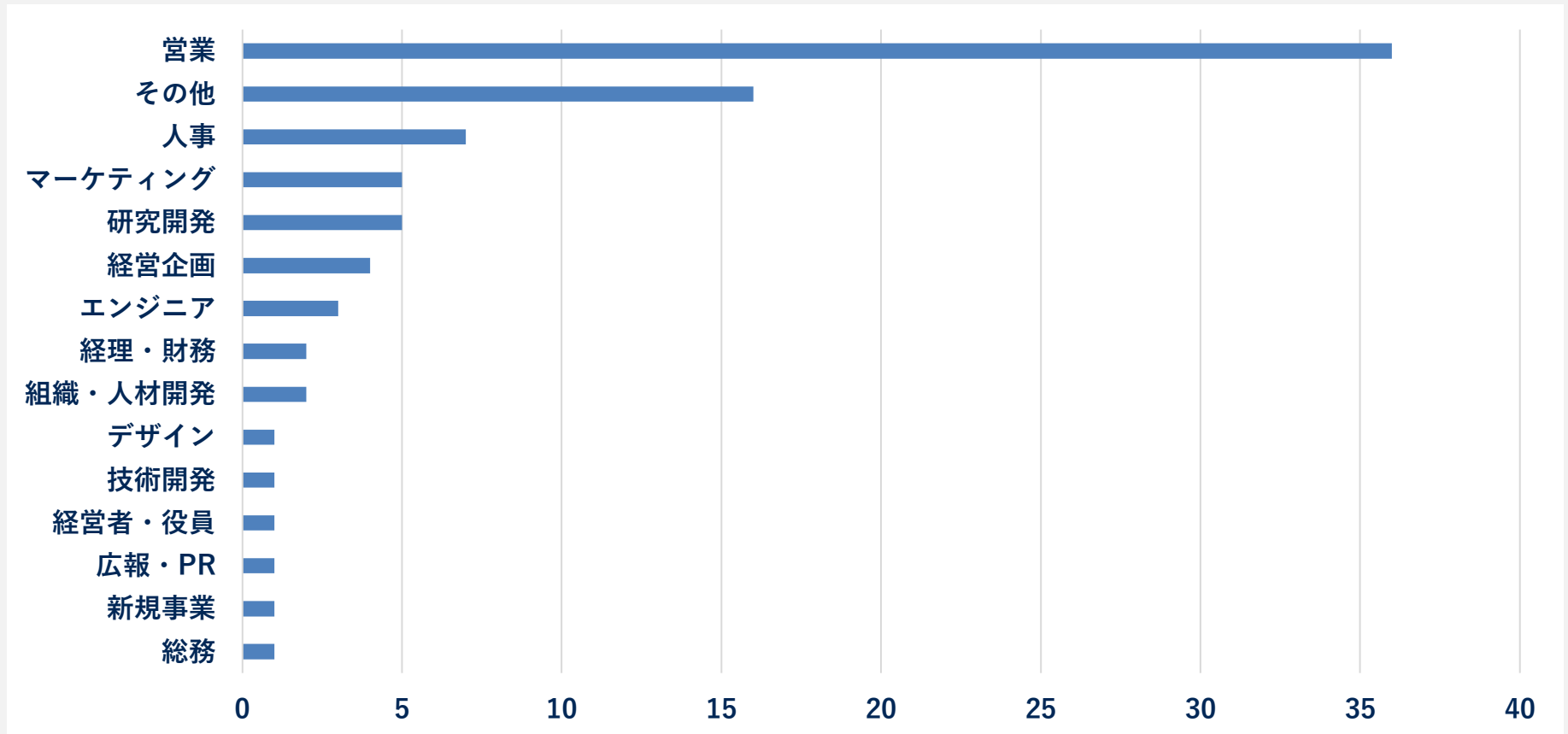
(n = 86)



# Q3：職種を教えてください

- 多様な職種のビジネスパーソンが参加
- 営業が最も多く、次いで人事・研究開発・マーケティングの担当者が多い
- プロボノは多様な職種のビジネスパーソンとの協働機会

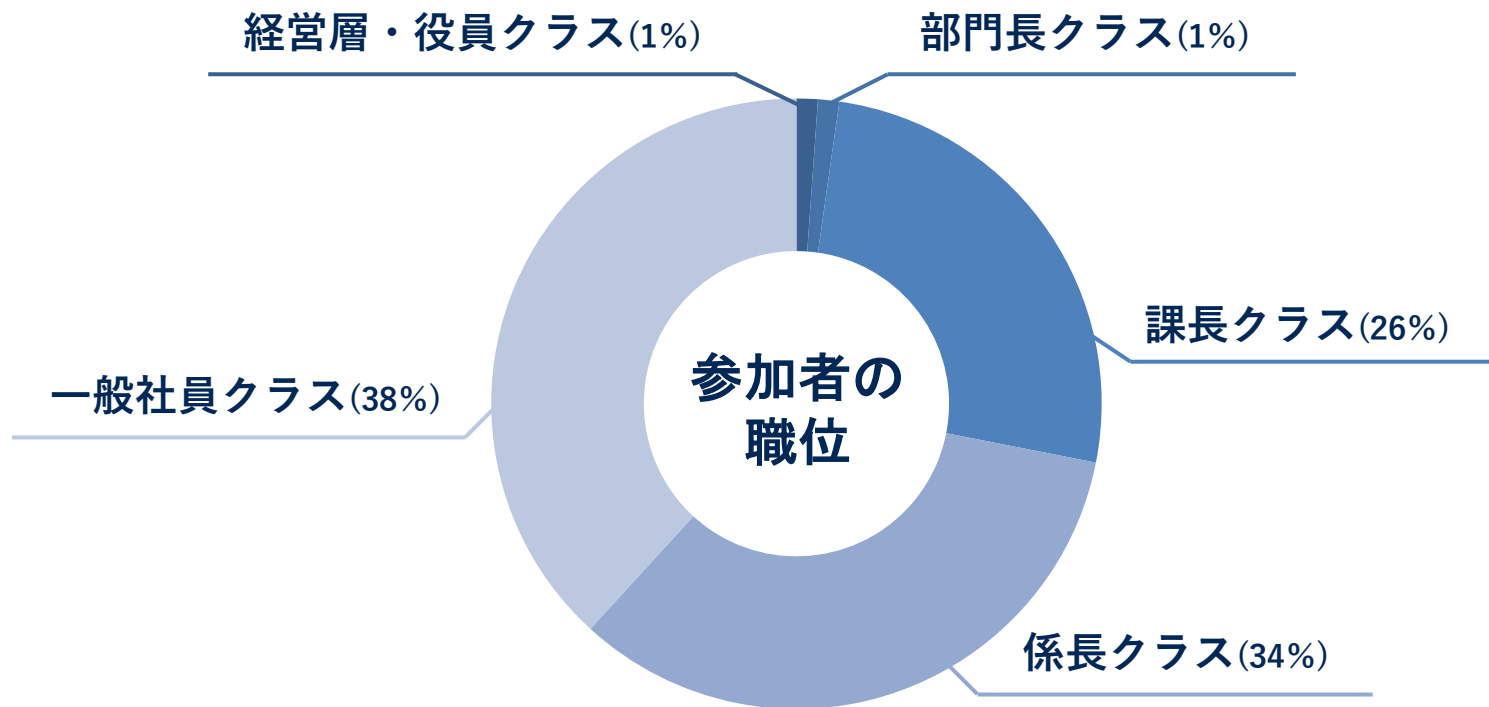
(n = 86)





# Q4：職位を教えてください

- 様々な職位のビジネスパーソンが参加
- 一般社員クラスが最も多く、次いで係長・課長クラスが多い
- プロボノは様々な職位のビジネスパーソンとの協働機会

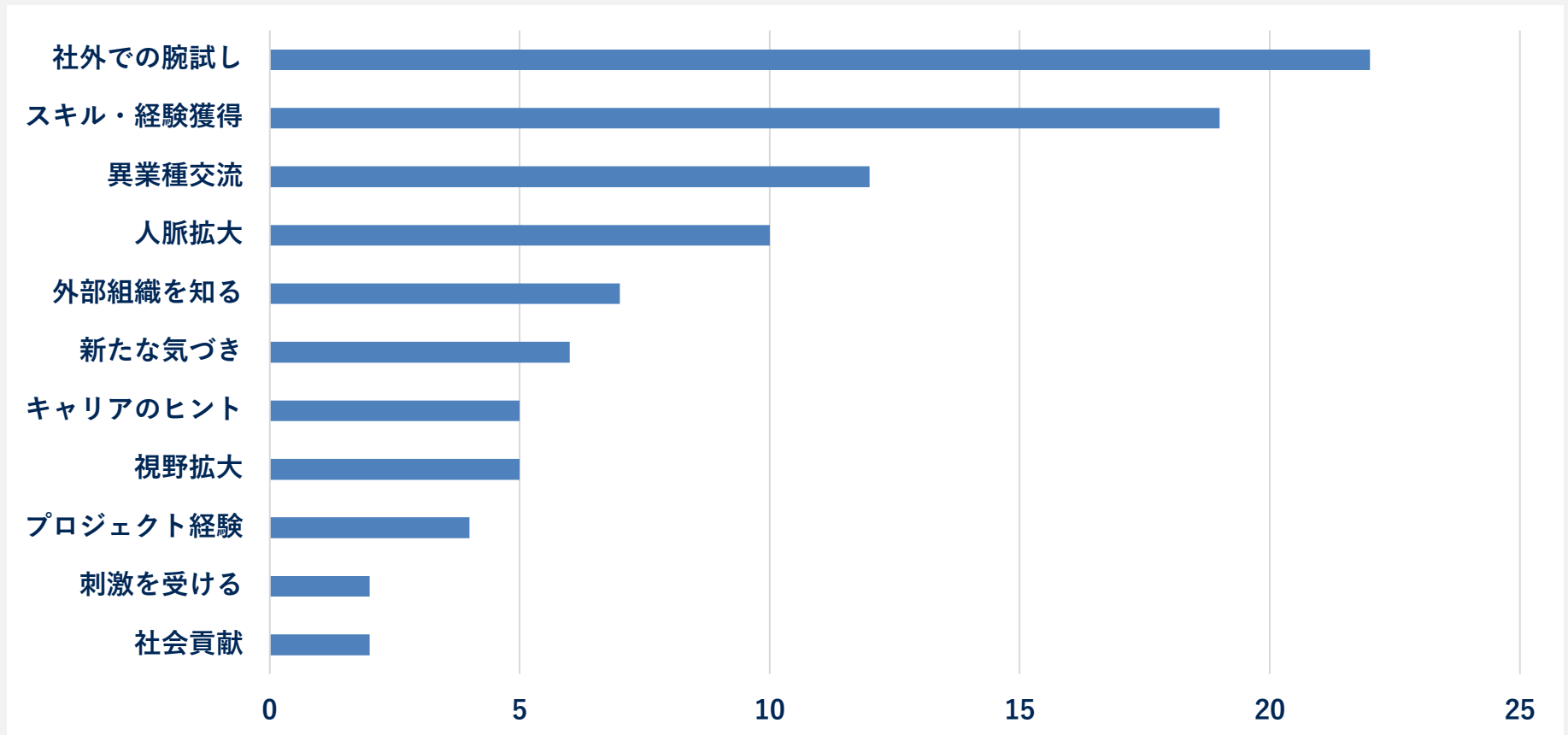


(n = 89)

# Q5 : プロボノに期待したこと

- 参加者はプロボノへ様々な期待をよせている
- 中でも「社外での腕試し」「スキル・経験獲得」に期待をよせる参加者が多い

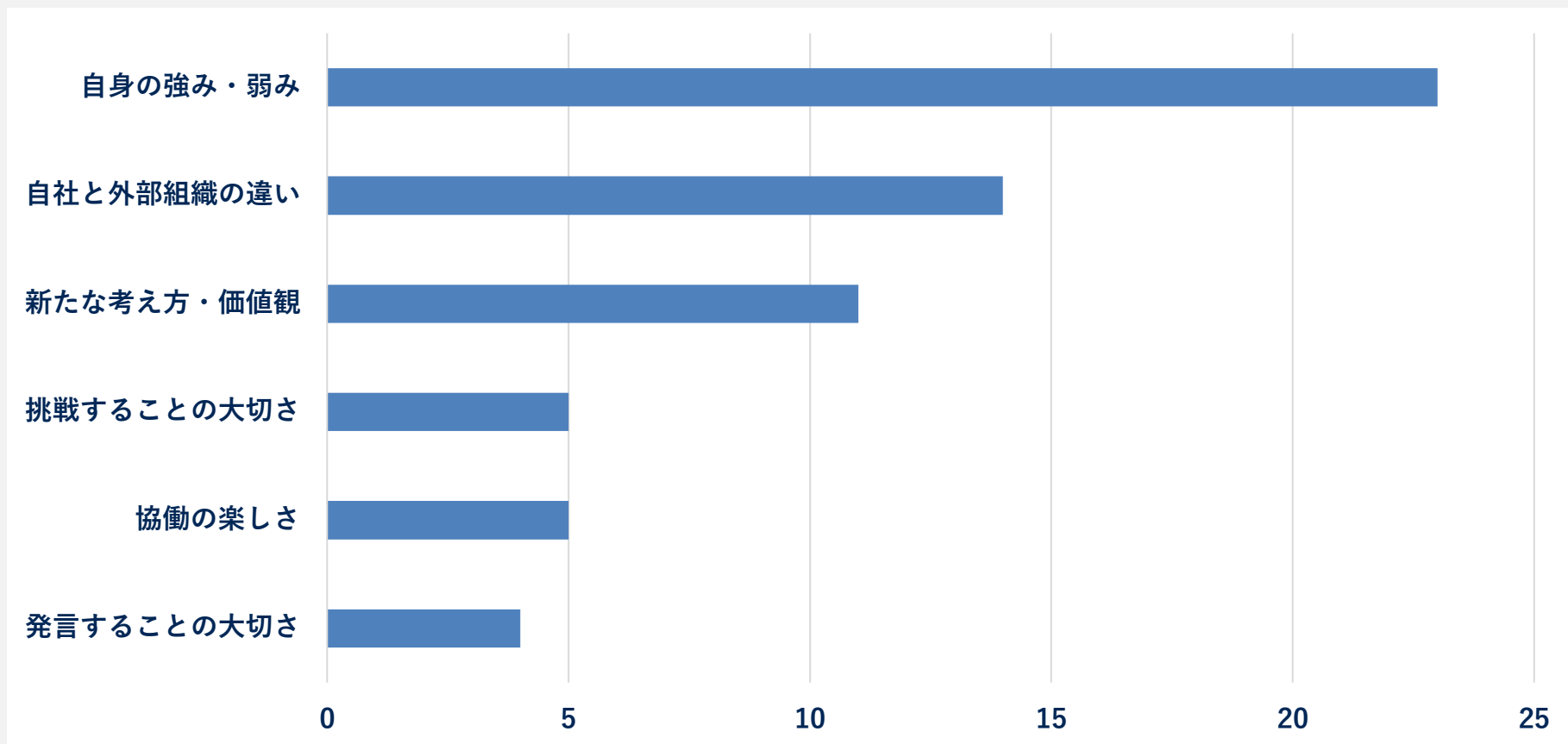
(n=71/自由回答)



# Q6 : プロボノから得た気づき

- プロボノを通して「自身の強み・弱み」への気づきを得る参加者が多い
- 参加者は社外での協働経験から、社内での通常業務や研修では得難い気づきを得ている
- その他「初対面の人と協働することの難しさ」「年齢・属性の異なる人の感覚や仕事への姿勢」を気づきとしている参加者も存在

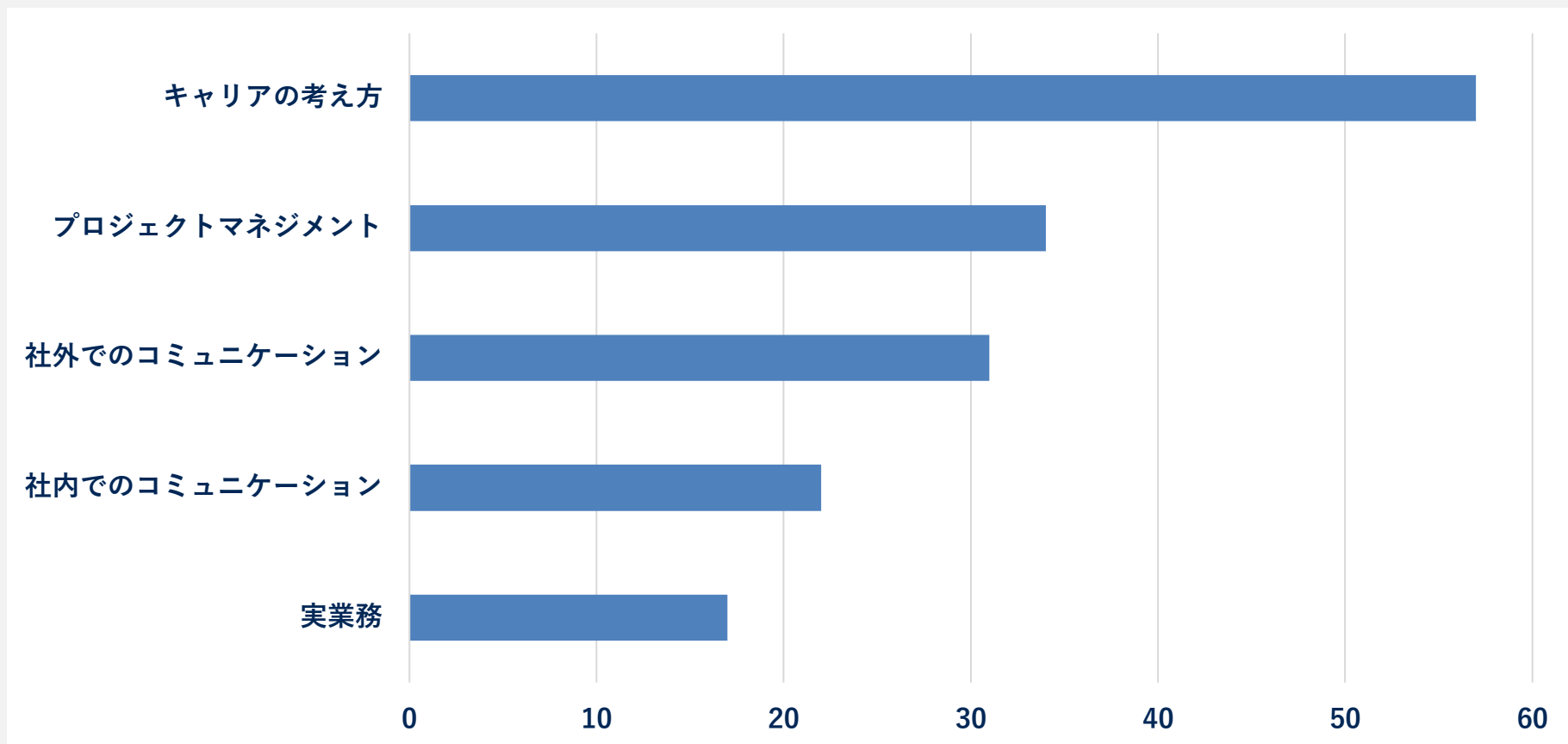
(n=71/自由回答)



# Q7：プロボノの経験が役立っていること

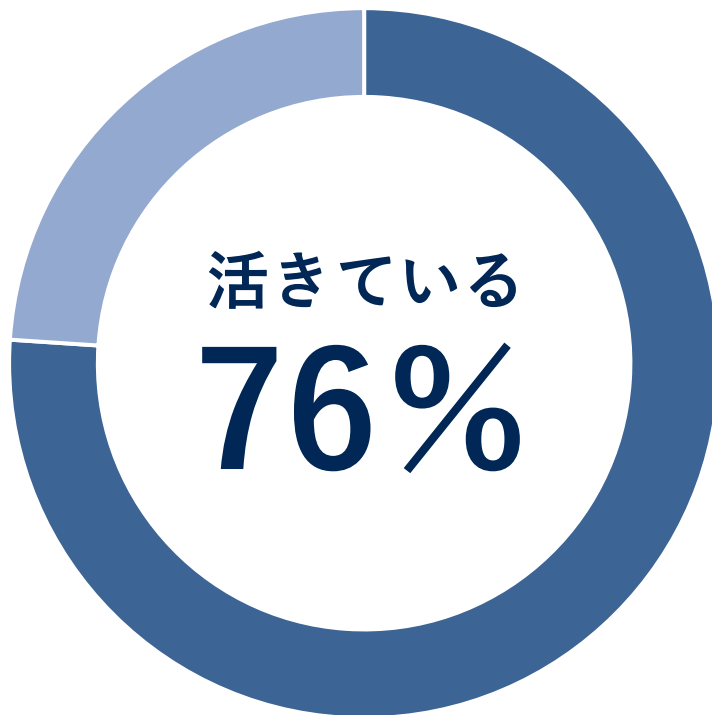
- プロボノが「キャリアの考え方」「プロジェクトマネジメント」に役立っている参加者が多い
- 年齢や属性の異なる参加者との協働経験は、「社内外でのコミュニケーション」に役立つ

(n=71/複数回答)



# Q8 : プロボノの経験が実業務に活かしているか

- プロボノ参加者の76%が「プロボノの経験が実業務に活かしている」と回答
- 参加者の半数がプロボノで獲得したスキルや経験を基に組織へ成果を還元している



(n = 71)

# Q9 : プロボノの経験が活かしている具体的なエピソード (1)

- プロボノの経験は、日々の業務や今後のキャリア実現に役立つ
- 「コミュニケーションの方法」「行動」「業務プロセス改善」に活かす参加者が多い



「自分の能力に自信がつき、ファシリテーションが楽しくなった」



「考えていないでとにかく動くようになった」



「分析をもとに戦略を立てて実行するようになった」



「いろいろな方向から物事を考えられるようになった」



「新しいことを始めることに対する抵抗感がなくなった」

## Q9 : プロボノの経験が活かしている具体的なエピソード (2)

- プロボノの経験は、日々の業務や今後のキャリア実現に役立つ
- 「コミュニケーションの方法」「行動」「業務プロセス改善」に活かす参加者が多い



「他者の意見を尊重すること、傾聴することに意識を向けるようになった」



「新プロジェクト立ち上げの際、メンバーを鼓舞し成功に導いた」



「双方向のコミュニケーションから結論を導けるようになった」



「異なる考えを持っている方との協働の場面で役に立っている」



「企業の悩みを実例を挙げて話すことができるようになった」

# Q10：プロボノの経験を実業務に活かすにはどうしたらよいか

- プロボノ経験を実業務へ活かすためには「継続的な参加」が必要だと考える参加者が多数
- 「実業務以外に生きる経験・スキルの獲得を目的に参加した」と回答した参加者も存在



「プロボノへ継続的に参加する」



「実業務に近い案件、遠い場合は品質の高いインプット」



「より具体的な落とし込み方まで検討する」



「実業務に生きるスキルの獲得というよりも、  
現職では得ることができない知識と経験の獲得のために参加した」



# Q11 : プロボノ参加後の自身の変化に対する周囲からの評価

- 「スキル」や「仕事に対する姿勢」に関して周囲からの評価を得る参加者が多数
- 周囲からの評価で、「無自覚の変化に気がついた」との回答も存在



「以前と雰囲気が変わり、いきいきしていると言われた」



「提案の視野が広がったとのコメントをいただいた」



「参加したこと自体、高評価の声をいただいた」



「参加年度の人事考課で最高評価であった」

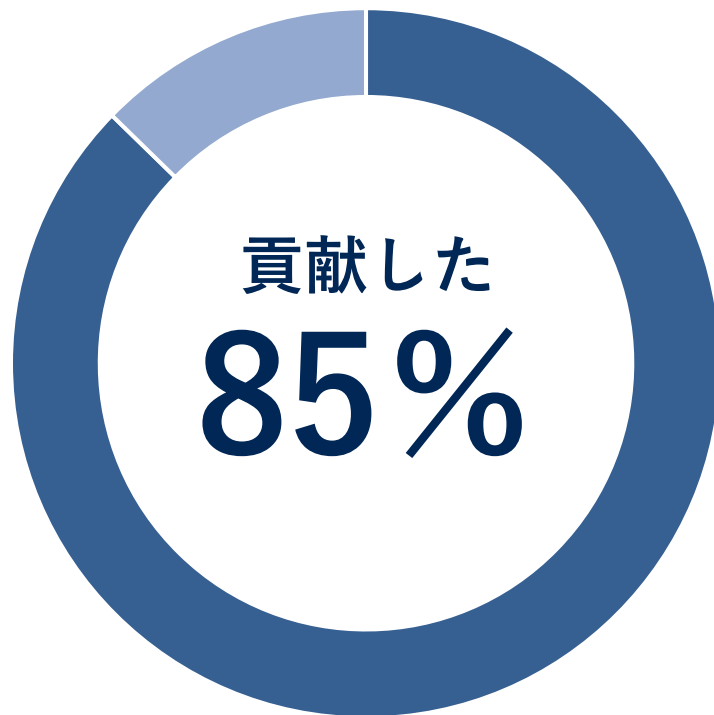


「巻き込み力が上がったと言われた」

# Q12：プロボノはキャリア観形成にどのくらい貢献したか

- 85%の参加者が、キャリア観の形成にプロボノ活動が貢献した※と回答

※「かなり貢献した」「ある程度貢献した」回答者の合計



(n = 63/複数回答)

# Q13 : プロボノを通じてキャリア観がどのように変化したか (1)

- プロボノを通して、キャリア観形成にプラスの変化が見られた参加者が多数
- この理由は、「能動的な姿勢の獲得」によるものだと考えられる



「自分のスキルや

これまでのキャリアを肯定的に捉えることができるようになった」



「描いたキャリアに必要な知識をどのように習得するか明確になった」



「社外の方との協働が自信に繋がり

もっと色々なことにチャレンジしたいとの意欲が湧いた」



「キャリアは実務スキルのみではなく

意欲や性格という面など多様性を持つものだと考えるようになった」



「自身の強みは自社のみではなく

社会に貢献できる価値があると、多少なりとも感じる事ができた」

# Q13 : プロボノを通じてキャリア観がどのように変化したか (2)

- プロボノを通して、キャリア観形成にプラスの変化が見られた参加者が多数
- この理由は、「能動的な姿勢の獲得」によるものだと考えられる



「学ぶことの面白さを再発見したため、なにか新しいことを学ぼうと思った」



「新しい分野にチャレンジする姿勢は  
年齢に関係なく大事にしたいという思いが強くなった」



「次に何がしたいのかわからなかったが、ビジョンが少し見えてきた」



「可能性が広がり、一步踏み出しやすくなった」

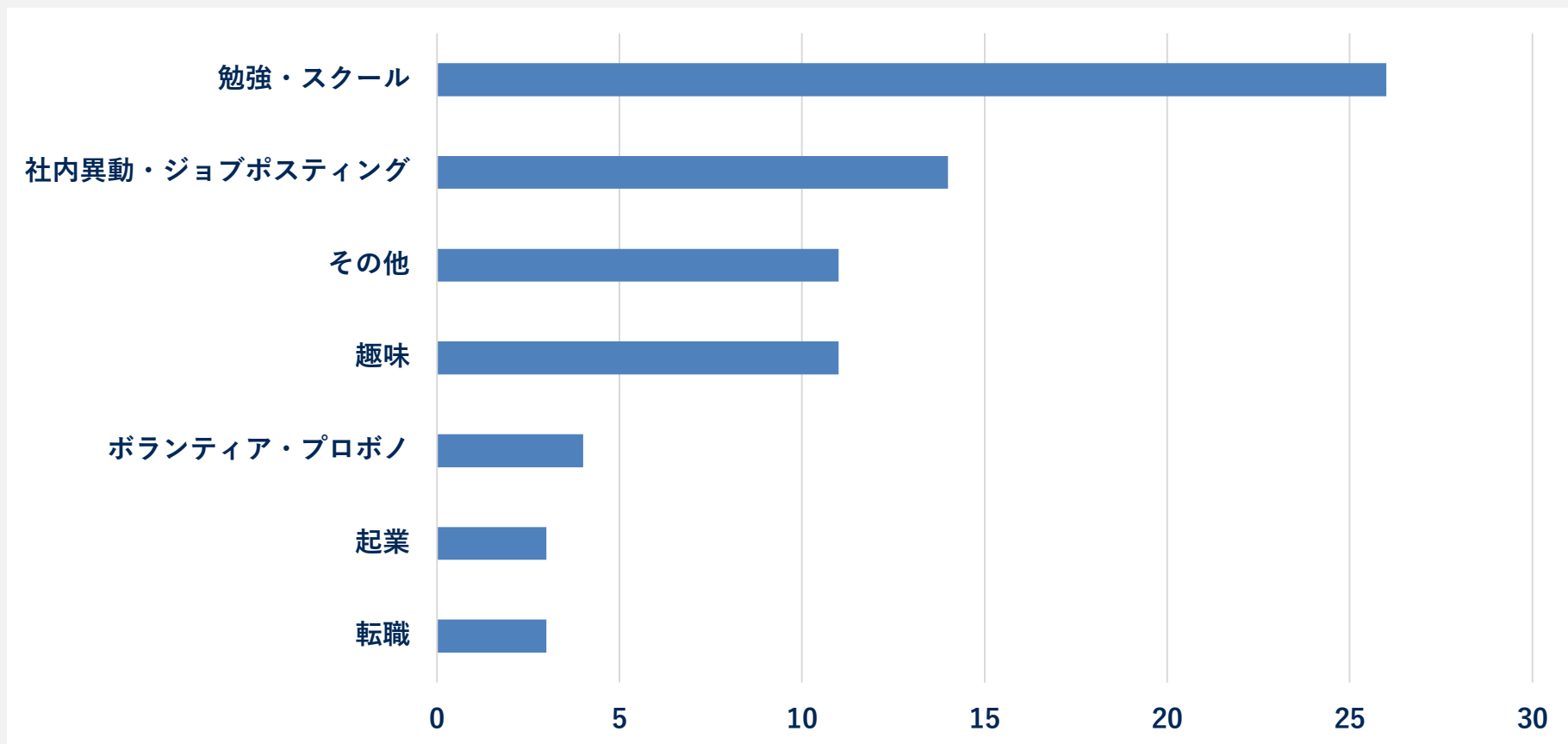


「得意分野に重点を置きつつ、苦手分野の改善を意識するようになった」

# Q14：プロボノ参加後の行動

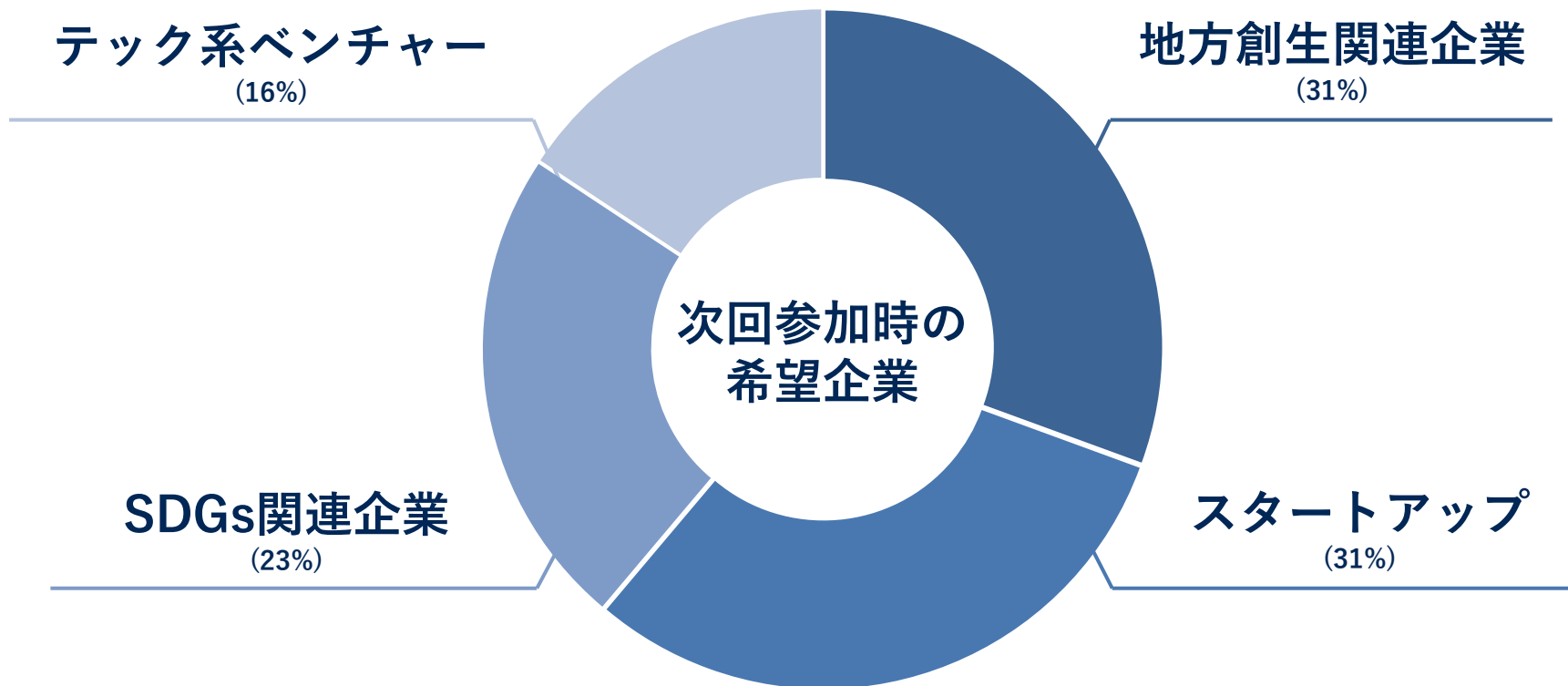
- 参加者の77%がプロボノ活動後に何らかの行動を起こしている
- 「勉強・スクール」「社内異動・ジョブポスティング」「趣味」の順に多い

(n=62/複数回答)



# Q15：次回受け入れ企業への希望

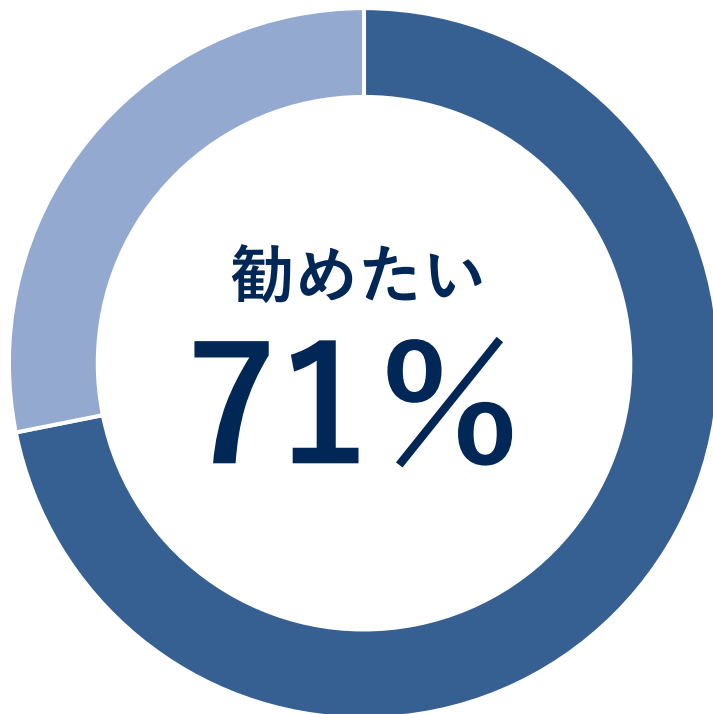
- 参加者は「地方創生関連企業」「スタートアップ」へのプロボノ参加に意欲的
- 参画したプロボノとは異なる業界・規模の企業や団体へ興味を抱く参加者が多数



# Q16 : プロボノを周囲へ勧める可能性

- 参加者の71%※がプロボノを周囲へ「勧めたい」と回答

※ 「どちらでもない」回答者を除く



(n = 32)

# Q17：プロボノを周囲へ勧めたい理由

- 71%の参加者が「経験やスキルの獲得」「自己理解」「キャリアビジョンの明確化」を理由にプロボノを周囲へ勧めたいと回答



「これまでの業務やキャリアの振り返り、棚卸しができるため」



「考え方や背景の異なる社外の方と  
同じ目標にむかって取り組むことはなかなかできない経験だから」



「通常の研修では身につけることができない  
新たな視点や社外とのつながりをもつことができるから」



「自分の強み・弱み、チームとして動く役割を明確にすることができるから」



「経験値や新たな考え方が獲得できるから」



## 02 | 年代別サマリー

# Q5 : プロボノに期待したこと

- どの年代の参加者も「人脈拡大」「視野拡大」「外部を知る」ことに期待をよせている
- 年齢が上がるにつれ「腕試し」「セカンドキャリアの選択肢増加」に期待をよせる傾向

**20代**

人脈拡大

「異業種交流と人脈形成」

「他社メンバーとの交流、ベンチャー事業の事業推進を知る」

**30代**

人脈拡大+腕試し

「色々な年代・職種の方とのかかわり」

「社外でもこれまでの経験が通用するのかどうかを知る」

**40代**

セカンドキャリア  
+腕試し

「自分のスキルが他の業界に通用するか試してみたい」

「セカンドキャリアのヒントとして」

**50代**

セカンドキャリア  
+腕試し

「社会で自分が何ができるのか、自分の能力や適性の確認」

「セカンドキャリアに向けて視野を広げる」

## Q6 : プロボノから得た気づき

- 「若手との協働経験から刺激を得た」 50代参加者が多数
- 通常業務では珍しい、年次の低い社員とのプロジェクト推進ならではの気づきだといえる



50代参加者

「スキルも大事だが、何よりもやる気と情熱が必要と痛感した」



50代参加者

「若い人たちと一緒にプロジェクトに参加したため、別の業界の若手の感覚、仕事への向き合い方を知ることができた」



50代参加者

「年齢や属性が多様な人たちの、自分とは違う感覚・意見を学んだ」

# Q13：プロボノを通じてキャリア観がどのように変化したか

- 20代 : 「自社組織内で積極的になった」
  - 30代-40代 : 「視野を広げ、キャリア形成をしようと感じた」
  - 50代 : 「挑戦に年齢は関係ないと感じた」
- との回答傾向がみられた



20代参加者

「自身が希望するポストへ手を挙げるようになった」  
「もっと仕事に貪欲になれた」



30-40代参加者

「転職とまではいかないが、自ら制限をかけず視野が広がった」  
「社外のつながりを大事にし、新たなスキルを身につけたいと思った」  
「今の会社にいながら、同時並行で違う業務に挑戦する選択肢に気が付いた」



50代参加者

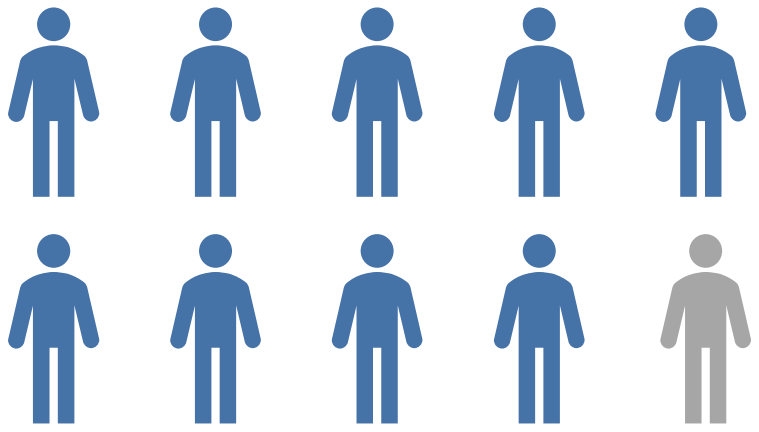
「新しいことに挑戦する際に大事なことは意欲。年齢は関係ない」  
「新しい分野に挑戦する姿勢は年齢に関係なく大事にしたいと思えた」  
「キャリアは実務スキルのみでなく、意欲や性格も影響することに気が付いた」

# Q14 : プロボノ参加後の行動 Q16 : プロボノを周囲へ勧める可能性

- 若い世代ほど、プロボノ後に何かしらのアクションを起こす傾向
- 若い世代ほど、プロボノを友人や同僚に「勧めたい」と回答

プロボノ後に  
行動を起こした  
20・30代は

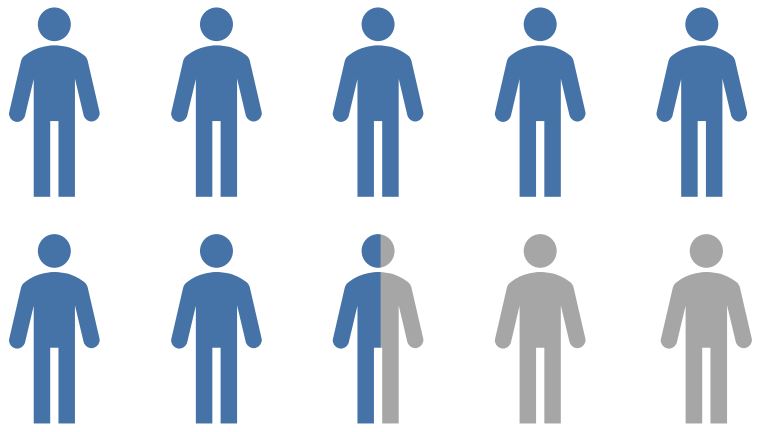
# 90%



(n=41)

プロボノを  
周囲へ勧めたい  
20・30代は

# 75%



(n=32) ※ 「どちらでもない」を除く

# 03 | 職位別サマリー

# Q5 : プロボノに期待したこと

## ■ 一般社員クラスは「人脈拡大・異業種交流」

係長・課長クラスは「社外での腕だめし」に期待をよせ、参加する傾向がみられた

### 一般社員



人脈拡大  
異業種交流

「異業種の人脈拡大」

「異業種コミュニティ」

「他者メンバーとの交流」

「他の職種とのつながり」

「社外の新しいつながりをつくるため」

### 係長・課長



社外での  
腕だめし

「自分のスキルを試してみたいと思った」

「自分のキャリアが他社でも通用するかを知るために」

「自身の社会人経験が社外で役に立つのか検証すること」

「社会で自分は何ができるのか、自分の能力や適性の確認」

「本業以外でどれくらいアイディアを出せるか試したかった」

# Q6 : プロボノから得た気づき

## ■ 課長クラス・係長クラスは、一般社員クラスに比べ

「これまでの経験や知見が社外に通用することへの気づき」を得ている傾向がみられた



「思っていた以上に知見が生かされた  
また、他業種の人とコラボして仕事ができることも確認できた」



「自分は能力が低いのではと思っていましたが、その場や  
意見をまとめることはそれなりにできるんだ、という思いが生まれました」



「新規企業開拓を従来より取り組んでいたため、  
社外の方とも円滑なコミュニケーションができ、今までの経験が役にたった」



「世の中で自分の考え方、  
スキルがどの程度通用するのか感じることができました」



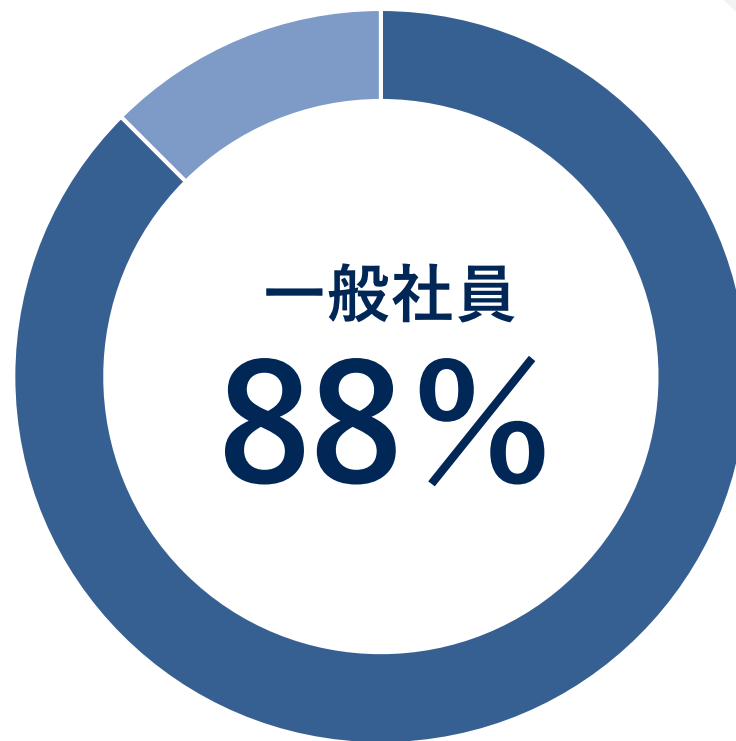
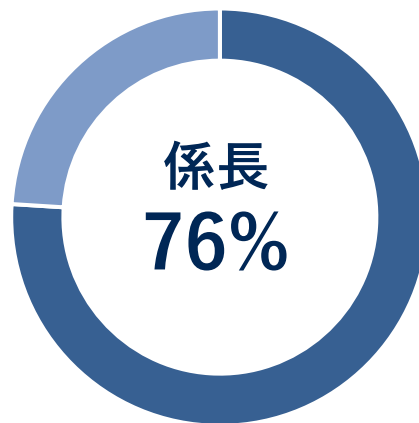
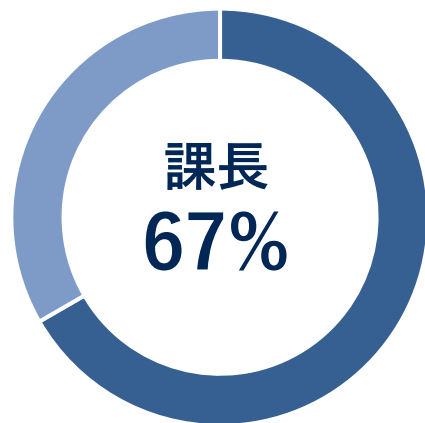
「当たり前だと思っていたスキルが意外と社外では貴重なのだと気がついた」



# Q8 : プロボノの経験が実業務に活かしているか

- 職位が低いほど「プロボノの経験が実業務に活かしている」と回答

プロボノの経験が現在の実業務に  
「活かしている」と回答した割合



▶ 若手のプロボノ参加は組織への還元率が高い

# Q13：プロボノを通じてキャリア観がどのように変化したか

## ■ 職位が上がるほど

「スキルが社外で通用することを実感し自信がついた」との回答傾向がみられた



課長クラス

「自分のスキルや

これまでのキャリアを肯定的に捉えることができるようになった」



係長クラス

「今の状況、環境が突然なくなったとしても

自分の強み弱みを武器に世の中でなんとかやっていけそうだと思えた」



課長クラス

「自分の職場以外にもっと社会に貢献できる可能性があることに気がついた」



係長クラス

「自身の強みは当社だけではなく

社会に提供できる価値があると、多少なりとも感じることができた」